Profile

アレクサンダー・ロマノフスキー　Alexander Romanovsky

カルロ・マリア・ジュリーニに「途方もない才能」と形容された、聴く者の心を捉える音色をもつ、刺激的で個性的、かつ繊細な演奏家である。

1984年、ウクライナ生まれ。イモラ・ピアノアカデミーでレオニード・マルガリウスに、その後ロンドン王立音楽大学でドミトリー・アレクセーエフに師事した。17歳でブゾーニ・コンクール優勝。

2015/16シーズンの主な活動には、バーミンガム市響、アイスランド響、スタヴァンゲル響、日本センチュリー響との初共演、マドリッド国立音楽堂及びポルトのカーザ・ダ・ムジカでの初リサイタル、ロシア国立響、ロシア・ナショナル・フィル、東京都交響楽団、東京交響楽団、アルメニア国立ユース管、ボローニャ歌劇場管、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場管との再共演、モスクワ音楽院大ホールのリサイタル、そしてイタリアと日本の大規模なツアーが含まれている。

ニューヨーク・タイムズに「色彩と空想の天賦の才を持つ途方もないテクニシャンであるばかりでなく、繊細な音楽家にして明快な解釈者として特別」と賞賛されたロマノフスキーは、多くの世界最高の舞台をリサイタルで飾っている。最近ではアムステルダムのコンセルトヘボウ大ホール、モスクワ音楽院大ホール、チリの市立劇場、ミラノ音楽院のヴェルディ・ホール、ローマのオリンピック劇場が挙げられる。

ソリストとして定期的に共演しているヨーロッパ、アジア、アメリカの主要なオーケストラには、イギリスのロイヤル・フィル、イギリス室内管、ハレ管弦楽団、ボーンマス響、イタリアのローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、ミラノのスカラ座フィル、ロシアのマリインスキー管、ロシア・ナショナル管、サンクトペテルブルク・フィル、ナショナル・フィル、日本の東京交響楽団、NHK交響楽団、ラヴィニア音楽祭のシカゴ響があり、アラン・ギルバート指揮／ニューヨーク・フィルとはヴェイル・ヴァレー音楽祭に出演している。指揮者では、スビヴァコフ、ゲルギエフ、プレトニョフ、フェドセーエフ、パッパーノ、ノセダ、コンロン等と非常に高いレベルで共演している。

1997年から住むイタリアでは、全土で広く演奏活動を行っている。2007年には、教皇ベネディクト16世臨席の教皇パウロ6世生誕110周年記念コンサートに招かれ、教皇公邸で演奏している。

2007年よりデッカから4枚のCDをリリースしており、そのすべてが高い評価を受けている。2013年より、ウラディーミル・クライネフ・モスクワ国際ピアノ・コンクールの芸術監督を務めている。

ALEXANDER ROMANOVSKY

DECCA

ロマノフスキーのアルバム 全4タイトル好評発売中! SHMCD

ラフマニノフ: ピアノ・ソナタ 第1番&第2番

アレクサンダー・ロマノフスキー

ラフマニノフ:

1 ピアノ・ソナタ 第1番 ニ短調 作品28

2 ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 作品36

録音:2012年7月、2013年9月 ベルリン

UCCD-1414　定価¥2,600+税

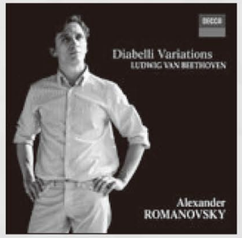
ラフマニノフ: 練習曲集《音の絵》、コレッリの主題による変奏曲

録音:2008年9月 ベルリン
UCCD-1324　定価¥2,476+税

シューマン: 交響的練習曲
ブラームス: パガニーニの主題による変奏曲

録音:2005年12月 ドッビアコ(トブラッハ)
UCCD-1323　定価¥2,476+税

ベートーヴェン: ディアベッリの主題による変奏曲



録音:2010年6月 ベルリン
UCCD-1325　定価¥2,476+税

UNIVERSAL CLASSICS STORE
ユニバーサル クラシックス ストア オープン!
store.universal-music.co.jp

ユニバーサル ミュージックのクラシック商品が「UNIVERSAL MUSIC STORE」からもご購入できるようになりました!

http://smarturl.it/romanovsky

発売・販売元:ユニバーサル ミュージック合同会社

http://www.universal-music.co.jp/classics/

アレクサンダー・ロマノフスキー

Alexander Romanovsky Piano Recital

ピアノ・リサイタル

2016年7月5日［火］ 19:00開演 紀尾井ホール

7:00p.m. Tuesday, July 5, 2016 at Kioi Hall

主催：ジャパン・アーツ
協力:ユニバーサル ミュージック合同会社

おかげさまで40年 40th Anniversary JAPAN ARTS

Program

シューマン　*R. Schumann*

アラベスク ハ長調 Op.18　*Arabesque in C major Op.18*

トッカータ ハ長調 Op.7　*Toccata in C major Op.7*

謝肉祭 Op.9　*Carnaval Op.9*

第1曲 前口上	1. Préambule
第2曲 ピエロ	2. Pierrot
第3曲 アルルカン	3. Arlequin
第4曲 高貴なワルツ	4. Valse noble
第5曲 オイゼビウス	5. Eusebius
第6曲 フロレスタン	6. Florestan
第7曲 コケット	7. Coquette
第8曲 返事／スフィンクス	8. Réplique/Sphinxe
第9曲 蝶々	9. Papillons
第10曲 A.S.C.H. - S.C.H.A - 躍る文字	10. A.S.C.H. - S.C.H.A. (Lettres dansantes)
第11曲 キアリーナ	11. Chiarina
第12曲 ショパン	12. Chopin
第13曲 エストレラ	13. Estrella
第14曲 再会	14. Reconnaissance
第15曲 パンタロンとコロンビーヌ	15. Pantalon et colombine
第16曲 ドイツ風ワルツ	16. Valse allemande
第17曲 告白	17. Aveu
第18曲 散歩	18. Promenade
第19曲 幕間	19. Pause
第20曲 ペリシテ人と闘うダヴィッド同盟の行進	20. Marche des "Davidsbündler" contre les Philistin

ムソルグスキー　*M. Mussorgsky*

組曲「展覧会の絵」　*Pictures at an Exhibition*

プロムナード	Promenade
第1曲 こびと	1. Gnomus
プロムナード	Promenade
第2曲 古城	2. Old Castle
プロムナード	Promenade
第3曲 テュイルリーの庭	3. Tuileries
第4曲 ビドロ	4. Bydlo
プロムナード	Promenade
第5曲 殻をつけたひなどりの踊り	5. Ballet of the Chickens in their Shells
第6曲 サムエル・ゴールデンベルクとシュムイル	6. Samuel Goldenberg and Schmuyle
プロムナード	Promenade
第7曲 リモージュの市場	7. The Market-Place at Limoges
第8曲 カタコンブ（ローマにある信者墓地）～「死者の言葉をもって、死者と共に」	8. Catacombae（Sepulcrum romanum）～Cum mortuis in lingua mortua
第9曲 鶏の足の上に建つ小屋（バーバ・ヤガー）	9. The Hut on Fowl's Legs（Baba-Yaga）
第10曲 キエフの大門	10. The Great Gate at Kiev

Program Notes

原 明美（音楽評論家）　*Akemi Hara*

シューマン：アラベスク ハ長調 Op.18

ドイツ・ロマン派の作曲家R.A.シューマン（1810-56）は、はじめはピアニストを目指したが、無理な練習が災いして指を傷め、断念する。しかし、ピアノに寄せる強い想いを作曲の筆で表し、特に20歳代の10年間は、ピアノ曲の創作に集中的に取り組んで約30曲のピアノ曲を書きあげた。一方、幼いころから文学に親しみ、文学青年でもあったシューマンのピアノ曲では、ドイツ・ロマン派の文学などからインスピレーションを得たと考えられる文学的な標題性や、独特のとりとめのない楽想のなかに漂う幻想的なロマンティシズムが、大きな特色となっており、それは、標題つきのピアノ曲集に色濃く表れている。なお、彼は評論活動も行い、互いに対照的な性格を持つ二つのペンネーム（フロレスタン、オイゼビウス）を使い分けていた。

「アラベスク」は、シューマン独特の、たゆたうようなロマンティシズムにあふれた小品であり、1839年にライプツィヒで作曲され、F.ゼッレ陸軍少佐夫人に献呈された。「アラベスク」とは「アラビア風の」という意味で、アラビアの工芸品や建築に見られる唐草模様を指すが、装飾的で幻想的な性格を持つ楽曲の標題としても用いられた。シューマンのこの曲は、ハ長調で書かれ、6つの部分が切れ目なく続く構成による。とりとめのない楽想が、装飾に彩られながら続いてゆき、全体に夢幻的な雰囲気をかもし出している。

シューマン：トッカータ ハ長調 Op.7

シューマンがハイデルベルク大学在学中の1829年に、「重音による幻想的練習曲」として着手したこの曲は、改訂を経て、「トッカータ」として1832年に完成され、友人の作曲家L.シュンケに献呈された。曲は、ハ長調により、コーダを伴うソナタ形式で書かれている。ピアノの名技性を探究していた当時のシューマンが、自身の練習用に作曲したであろうことを物語るように、高度な演奏技巧を追求した練習曲的な性格を持つ小品である。

シューマン：謝肉祭 Op.9

シューマンが1835年にライプツィヒで書きあげた「謝肉祭」は、彼の標題つきピアノ曲集のなかでも傑作の一つとされる。C.リビンスキーに献呈されたこの曲には、「4つの音符上の小さな情景たち」という副題が付いているが、4つの音符とは、A（イ）-S（=Es）（変ホ）-C（ハ）-H（ロ）を指す。これは、当時のシューマンと恋仲だったエルネスティーネという女性の故郷アッシュ（Asch）の文字を、音符に当てはめたものだが、シューマンは、自分の名前の綴り（Schumann）にもこの文字が含まれていることに喜びを覚え、曲のなかに文字の遊び的な要素を取り入れたのである。一方、彼が創作した架空の同盟「ダヴィッド同盟」のメンバー（フロレスタン、オイゼビウスなど）や、仮面舞踏会の役者たち（アルルカンなど）も、曲中に登場する。

全体は、個々に標題を持つ20の小品から成るが、第8曲と第9曲の間に置かれた「スフィンクス」は、副題の由来となったAschから組み合わせられる3通りの音符の並べ方を、譜面に示しただけのもので、演奏では省略されることもある。そして、この壮大な曲集は、変イ長調を基調として進むなかで、変化に富む華やかな曲想を繰り広げ、まさに謝肉祭と仮面舞踏会の光景を想像させる。内訳は次のとおりである。

1.前口上／ 2.ピエロ／ 3.アルルカン（道化役者）／ 4.高貴なワルツ／ 5.オイゼビウス／ 6.フロレスタン／ 7.コケット（浮気女）（艶っぽい娘の役）／ 8.返事（応答）／スフィンクス（省略の場合あり）／ 9.蝶々／ 10.ASCH-SCHA－躍る文字／ 11.キアリーナ（シューマン夫人となるクララの、「ダヴィッド同盟」での名前）／ 12.ショパン／ 13.エストレラ（エルネスティーネの名前のもじり）／ 14.再会／ 15.パンタロンとコロンビーヌ（道化の男女）／ 16.ドイツ風ワルツ（間奏曲として「パガニーニ」をはさむ）／ 17.告白／ 18.散歩／ 19.幕間（休憩）／ 20.ペリシテ人（びと）と闘うダヴィッド同盟の行進（シューマンが新しい音楽の理想を追求する自分を表現するために創作した、架空の同盟であり、聖書の物語でペリシテ人と闘ったダビデ王になぞらえたもの）

ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」

音楽の分野でも国民性を強調する傾向が高まった19世紀後半、ロシアでは、西ヨーロッパの音楽にあまり影響されずに、純粋にロシア的な民族色を打ち出そうとした作曲家グループ「五人組」が活躍した。ロシア国民楽派の中心となったこの「五人組」（ロシア語では「マグーチャヤ・クーチカ」=「力強い仲間」）の一人が、M.P.ムソルグスキー（1839-81）であり、1874年に完成された「展覧会の絵」は、彼の代表作として名高い壮大な組曲である。力強さや素朴な叙情性などが印象深いこのピアノ曲については、のちにフランスの作曲家M.ラヴェルがオーケストラ用に編曲しており、このオーケストラ版でもよく演奏される。

組曲「展覧会の絵」は、ムソルグスキーの親友だった画家V.ハルトマン（1842-73）の死を悼み、その遺作展を見た感銘をもとに作曲されたという。そして、10の絵画を見て歩くという構成で書かれているが、冒頭や、いくつかの絵と絵の間には、「プロムナード（そぞろ歩き）」という曲が、形を変えながら現れて、案内役あるいは気分転換のような役割を果たしている。内訳は次のとおりである。

プロムナード／ 1.こびと（グノームス：地底を守る妖怪）／プロムナード／ 2.古城／プロムナード／ 3.テュイルリーの庭（公園で遊ぶ子供たち）／ 4.ビドロ（牛車、家畜）／プロムナード／ 5.殻をつけたひなどりの踊り／ 6.サムエル・ゴールデンベルクとシュムイレ／プロムナード／ 7.リモージュの市場／ 8.カタコンブ（ローマにある信者墓地）～「死者の言葉をもって、死者と共に」／ 9.鶏の足の上に建つ小屋（ロシアの伝説に登場するバーバ・ヤガーの小屋）／ 10.キエフの大門

◆ 2016年日本公演スケジュール

7月1日（金）	大 阪	ザ・シンフォニーホール／主催：日本センチュリー交響楽団　★
7月2日（土）	大 阪	ザ・シンフォニーホール／主催：日本センチュリー交響楽団　★
7月5日（火）	東 京	紀尾井ホール／主催：ジャパン・アーツ
7月7日（木）	静 岡	静岡音楽館AOI／主催：（公財）静岡市文化振興財団

★日本センチュリー交響楽団との共演